

# プラネタリウムは明石のたからもの

ほんものほしぞら  
本物の星空みたいに  
きれいだよ!

まちのシンボル天文科学館とともに大切にされているプラネタリウム。  
ほしぞら星空をうつす仕組みや歴史を天文科学館で教えてもらったよ。

## プラネタリウムってなに?

丸いドームの天井にまるで本物のように星空をうつし出す機械です。明石の天文科学館では時計塔の横にあるドーム型の部屋にあります。



ココの中にあるよ

星座名投影機  
(北半球)

## どうやって星をうつし出しているの?

電球から出た光が、星の位置に穴をあけた板(恒星原版)を照らし、レンズを通してスクリーンにうつし出されます。



## 恒星原版

星空のもとになる部品で、約9000個の星を32枚の板に手作業で穴をあけています。

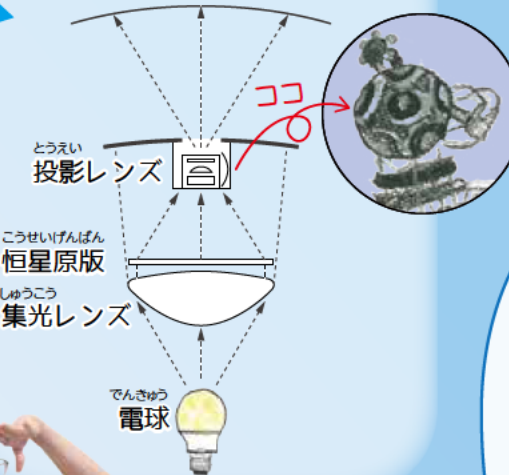


暗い星は小さく、明るい星は大きく穴をあけているよ



## プラネタリウムの仕組み

プラネタリウムスクリーン



星をきれいにうつすには毎日の点検が大切!

## 設備担当職員さんに聞いたよ

星をうつす電球がつかなくなる前に、定期的に交換をしています。約10年に1度、プラネタリウムを作ったドイツの技術者が点検をしてくれます。



衛藤 俊介さん

## 電球

いろんな形をした67個の電球が自然な星空を作りだしています。



LEDだと明るすぎてキレイに星をうつすことができないんだ

## 解説台

学芸員が座っているところにたくさんのボタンやスイッチ、レバーがあり、プラネタリウムを動かすことができます。



ボタンがたーいさん!

毎回違う解説を聞けるのも楽しいね



## 誰が動かしているの?

解説をしている! 学芸員さんに聞いたよ



63年前の開館から変わらず、学芸員が手でポインター(星を指し示す矢印など)やボタンを動かして、その場で星空を解説しています。お客様の反応に合わせて解説ができるので、何度見ても楽しめますよ。

学芸員のみなさん

## 震災を乗り越えたプラネタリウム

兵庫県南部地震の時、建物は大破しました。でも、奇跡的にプラネタリウムは無事でした。

震災を乗り越えて、今も現役で動いているなんてすごいね

地震が起きた5時46分で止まった時計



明石で組み立てられたよ

## なぜプラネタリウムは誕生したの?

ドイツ博物館の館長が「地上に星空を展示したい」と考え、カールツァイス社という会社が作りました。

天文科学館 井上 毅 館長

## プラネタリウムの歴史

- 1923年10月21日 ドイツ博物館で世界初のプラネタリウム誕生
- 1960年6月10日 明石市立天文科学館が開館、明石のプラネタリウムが誕生
- 1995年1月17日 兵庫県南部地震
- 2012年8月29日 明石のプラネタリウムが長寿日本一に!
- 2023年10月21日 世界初のプラネタリウム誕生100周年



日本では1937年に大阪に初めてできたよ



## 昔の写真を見せてもらったよ

ドイツから船で部品が運ばれてきたよ

どうやって運ばれてきたのかな?



星とダジャレが好きなの! 館長に聞いたよ



明石市立天文科学館は「時と宇宙の博物館」で、とくにプラネタリウムは大人気です。

今年ドイツでプラネタリウムが生まれてから100年をむかえ、世界各地で記念イベントが行われているよ。



天文科学館 井上 毅 館長

